

## 中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 着衣型能動デバイスが拓くヒト動作と触感覚の制御
2. 研究代表者： 舟洞 佑記（名古屋大学 工学研究科 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本研究課題は布を能動化する技術を、応用可能な確固たる技術シーズとするために、布型デバイス設計法の確立と布型デバイス特性の体系化を目指すものである。

フェーズ1では基礎研究である布型デバイス設計やデバイス特性の体系化、および、応用研究である着衣型デバイスを用いたヒトの動作制御など幅広いテーマに取り組んでおり、基礎的な検討や要素技術の開発が順調に進んでいる。

フェーズ2ではこれまでの研究を継続してデバイス開発を続けていく計画であり、妥当である。一方、大きな展望として色々な応用分野が示されているが、本当に布を使うことに決定的な優位性があるのか、キラーアプリケーションを見つけてそこに資源を集中させていくことも考えられる。産業界との連携が、現時点では製造側の企業との協力にとどまっているが、医療・健康器具メーカーやエンターテインメントデバイスメーカーなどとも関わりを持つことで具体的な応用先を検討していくことを期待する。

以上